神戸大学国際文化学研究科・国際文化学研究推進センター研究プロジェクト
「キリスト者の「発見」をめぐる言説の検証―近代移行期の「他」の読み替え―」
第1回研究会

メキシコにおける聖フェリーペ・デ・ヘスス崇拝
その変遷の歴史をたどって

講演者　川田 玲子 氏
（滋賀大学経済学部・非常勤講師）

コメンテーター　桜井 三枝子 氏
（京都外国語大学ラテンアメリカ研究所・
客員研究員）

日時　9月19日（木）　13：00－
会場　神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ
大阪市北区鶴野町1-9　梅田ゲートタワー8階

長崎26聖人のひとり、メキシコ人フェリーペ・デ・ヘススは、日本ではほぼ無名であるが、生国メキシコでは崇拝の対象となっている。そのきっかけは列福であった。史料を紐解くと、その崇拝の始まりと形成においてクリオージョ（クリオーリョ）が関与していることがわかる。 ところでフェリーペは殉教以外、その人生で取り立てて語るべきことをしていない。それ故であろうか、ひとたび崇拝が始まると、そのイメージとしてキリストとの類似性が強調され、またさまざまな聖なるイメージが創作され続けた。そうした聖フェリーペのイメージが持つ社会的役割を挙げると、まず、植民地時代ではクリオージョのシンボル、独立直後は保守派の旗印、改革（自由主義派による）期には教会と政権の間で矢面に立たされ、そして現在は、若者のための聖人である。興味深いことにこの聖フェリーペ崇拝の歴史を見ると、メキシコで最も崇拝されてきた、国家的シンボルともいえるグアダルーペの聖母崇拝のそれと重なる。今回は、その時々の状況を語りながら聖フェリーペ崇拝史の全容を見ていくこととする。

問合せ　南郷晃子（神戸大学国際文化学研究推進センター学術研究員）kokonango@gmail.com